

建築教育ニュース

1984, 11

東日本建築教育研究会

## 目 次

1. あいさつ .....	会長 楠見善男 .....	1
2. 昭和58年度事業報告および会計（決算） .....	事務局 .....	2
3. 昭和59年度事業計画・会計（予算）および役員名簿 .....	事務局 .....	4
4. 昭和59年度総会・研究協議会報告 .....	盛岡工高 城戸敏夫 .....	7
5. 青森県工高建築教育の概況について .....	青森工高 館山俊男 .....	8
6. 我校における木造実習の現況 .....	羽咋工高 本橋要作 .....	10
7. 施工分科会報告 .....	主査 山室 滋 .....	15
8. 計画分科会報告 .....	主査 佐藤賢吉 .....	18
9. 構造分科会報告 .....	主査 古谷 勉 .....	20
10. 製図分科会報告 .....	主査 赤地龍馬 .....	22
11. ニュース .....		24

あとがき

## 1. あ い さ つ

会長 東京都立墨田工業高等学校長 楠見 善男

大役を仰せ付かったとき就任の挨拶で、人はよく「図らずも……」という枕を使いますが、私は本校に着任したとき（58年4月）以来、建築科の先生方から「来年6月の中旬は必ず予定をあけておくように」ということと、59年度からは「東建研の会長ですよ」ということを1年間言われ続けて来ました。ですから、図らずも…とは言える筋ではないのですが、さてお受けしてみますと、皆様のお役に立てるのかなあという心配が離れません。そういう意味では、心の準備期間が長くはありましたが、不意をつかれたのと余り変わらないようです。これから精々勉強させて頂いて、会員諸先生の研修・その日々の授業への反映・相互の親睦等にいささかのご奉公が出来ますれば、大へん幸せなことと思っ

ている次第です。

建築科の大きな特長として（素人が垣間見て大きなことは言えないのですが）、私は次のようなことを感じています。特に、日本の建築物を見ますと、風土に合せ、和洋取りまぜ間口の広いのに驚きます。つい先日も兵庫県宝塚市のあるホテルで行われた研究協議会に参加したのですが、外見からは誠に壮大な洋風のホテルのその客室はほとんど和室でした。床の間、障子、襖、天井ことごとく日本調でした。ですのに、バス・トイレや1・2階のフロントやラウンジはもちろん洋式でした。このようなスタイルの複雑さに加え、小は個人の住宅から大はマンションや公共建造物、ビル、工場等に至るまで規模の違いがあるわけですから驚きます。第2の特長は歴史的・年代的な広がりをもっているということです。文化財的社寺・仏閣から前衛的建造物まで、しかも活用され使用されながら息づいていることが魅力的です。第3は総合的であるということです。日進月歩の素材を巧みに使いながら、いろいろの工学的知識を総合し駆使しているわけで、針の先のようなことをやって来た私らからみると敬服するばかりです。第4は芸術的であるということです。機能に徹しムダの一切ない磨き抜かれた建造物から贅美を尽くした絢爛豪華を極めたものまで、その中に籠められた作者の精魂が芸術の香りを放っているのでしょう。

といったことを特長として感じています。生活に直接結びついていますから、法規上の制約も多く、その方の勉強も大へんと伺っています。工業高校3年間で1人前に仕上げるには、先生方のご精進は並々ならないものがあるはずと存じます。この研究会が、そのために役立つこと願ってやみません。

## 2. 昭和58年度 事業報告

### 1 総会・研究協議会

日 時： 昭和58年5月20日（金）・21日（土）

会 場： 富山県東砺波郡庄川町「越中庄川荘」TEL 07638-2-5111

#### 1) 総会議事

ア 昭和57年度 事業報告並びに会計報告

イ 昭和57年度 会計監査報告

ウ 昭和58年度 役員改選

エ 昭和58年度 事業計画並びに予算案審議

オ その他

2) 講演会 佐藤工業株式会社 常務取締役 佐藤 嘉剛 殿  
「建設業の今後の展望と建築教育」

#### 3) 研究協議会（全体会）

研究発表： 富山工業高等学校 教諭 寺井 清 先生  
「工業基礎・工業数理の実践報告」

#### 4) 研究協議会（分科会）

ア 製図分科会： 建築製図の学習指導について

イ 計画分科会： 建築計画の学習指導について

ウ 構造分科会： 建築構造・建築設計の学習指導について

エ 施工分科会： 建築施工の学習指導について

#### 5) 視察研修

ア：井波瑞泉寺 イ：彫刻会館 ウ：相倉合掌集落の村上家

### 2 講習会

日 時： 昭和58年8月 9日・10日（NEC：東京三田ビル）  
11日・12日（富士通：東工大附属工高）

内 容： 建築科目に関するパソコンの実技指導と実技演習

3 第2回製図コンクールの実施……11月7日締切 応募総数 252点

### 4 常任理事会・委員会等

1) 常任理事会： 年6回開催

2) 主 査 会： 年5回開催

3) 委 員 会： 各分科会とも年6～8回開催

5 工業標準テスト： 会長、千葉県市川工、神奈川県小田原城北工  
東京都墨田工、田無工

6 刊 行 物 建築教育ニュース 1983号 11月発行  
会 員 名 簿 3号 11月発行  
建築構造演習ノート： 実教出版KKより発行

## 昭和58年度 会計決算報告

下記のとおり報告いたします。

会 長 国 兼 光 由  
会 計 事 務 局

1 収 入 額 977,287円

項 目	予 算 額	決 算 額	増 減 額	摘 要
会 費	700,000	735,000	35,000	147校分
雑 収 入	11,364	25,592	14,228	助成金2万円, 銀行利子
印 税	80,000	38,059	△ 41,941	基礎問題
賛助会補助	180,000	60,000	△120,000	支出減のため
繰 越 金	118,636	118,636	0	
合 計	1,090,000	977,287	△112,713	

2 支 出 額 845,500円

項 目	予 算 額	決 算 額	増 減 額	摘 要
1) 事 業 費	820,000	640,900	△179,100	
総 会 費	320,000	280,200	△ 39,800	会場校補助, 本部経費等
資 料 費	200,000	100,700	△ 99,300	資料, ニュース等印刷費
講習会補助	40,000	0	△ 40,000	NEC, 富士通と協力のため
出張補助費	100,000	100,000	0	西日本, 北海道, 富山出張
分科会補費	160,000	160,000	0	4分科会各4万円
2) 運 営 費	253,000	204,600	△ 48,400	
役員会合費	18,000	24,200	6,200	理事会, 主査会各6回
通 信 費	150,000	109,820	△ 40,180	総会通知, ニュース発送等
雑 費	20,000	5,580	△ 14,420	事務用品代
事 務 費	15,000	15,000	0	事務局事務手当
準 備 費	50,000	50,000	0	名簿積立金(累計24万円)
3) 予 備 費	17,000	0	△ 17,000	
4) 合 計	1,090,000	845,500	△244,500	

3 差 引 残 高	131,787円		収入減	112,713円
			支出減	244,500円

4 次年度繰越金 131,787円

会 計 監 査 報 告

昭和59年3月31日

会計監査の結果, 収支・帳簿等相違ないことを認めます。

会 計 監 査 堀 越 喜 与 志  
加 藤 尚

### 3. 昭和59年度 事業計画

#### 1 総会・研究協議会

日時：昭和59年6月15日(金)・16日(土)

会場：盛岡市大通り3丁目「ホテル東日本」 TEL 0196-25-2131

- 1) 講演会 東北大学 教諭 内山和夫先生  
「雪と建築」

#### 2 研究協議会(全体会)

研究発表1 社陵高等学校 教諭 鈴木善治先生

「工業基礎をどのような計画のもとにどのような内容で指導したか」

研究発表2 久慈工業高等学校 教諭 松本元治先生

「工業数理における一考察について」

研究発表3 弘前工業高等学校 教諭 古跡昭彦先生

「パソコンについての実践報告…日影図をかかせる一」

映画発表 田無工業高等学校 企画・製作

「躍進田無工高一卒業生はいま……」

#### 3) 研究協議会(分科会)

ア 製図分科会：建築製図の学習指導について

イ 計画分科会：建築計画の学習指導—建築法規の指導方法—について

ウ 構造分科会：建築設計の学習指導—指導項目と単位数—について

エ 施工分科会：建築施工・実習の学習指導—施工実習の指導法—について

#### 2 夏期講習会(定員 約50名)

日時：昭和59年8月1日(水)～3日(金) 9時～17時

会場：神奈川県立向の岡工業高等学校(国鉄 南部線 久地駅 下車)

#### 3 常任理事会・委員会等(年5～7回 必要に応じて開催予定)

1) 常任理事会：会長、副会長、事務局長、分科会主査、代表理事若干名

2) 主査会：会長、副会長、分科会主査

3) 分科会：分科会主査、学校代表委員若干名

4) 教材委員会：委員長、副会長、分科会主査、専門委員若干名

5) 編集委員会：委員長、副会長、委員若干名

6) 製図コンクール運営委員会：委員長、副会長、委員若干名

7) 工業標準テスト問題作成委員会：会長(副会長代行)、委員4名

#### 4 刊行物

1 建築教育ニュース：1984号 11月 発行予定

2 会員名簿3号：移動等に伴う訂正表 発行

3 建築構造図集：実教出版KKより9月ごろ発行予定

## 昭和59年度 予 算

### 1 収 入 額 1,050,000円

項 目	予 算 額	摘 要
会 費	700,000	140校分
雑 収 入	28,213	助成金, 銀行利子等
印 税	40,000	基礎問題, 建築構造演習ノート・図集
賛助会補助	150,000	
繰 越 金	131,787	昭和58年度繰越金
計	1,050,000	

### 2 支 出 額 1,050,000円

項 目	予 算 額	摘 要
1) 事 業 費	810,000	
総 会 費	340,000	会場校補助12万円, 本部経費
資 料 費	150,000	総会資料・ニュース等印刷費
講習会補助	60,000	夏期講習会補助等
出張補助費	100,000	西日本, 北海道等出張補助
分科会経費	160,000	4分科会各4万円
2) 運 営 費	223,000	
役員会議費	18,000	理事会, 主査会等年18回
通 信 費	120,000	総会通知, ニュース等発送・通信費
雑 費	20,000	事務用品代等
事 務 費	15,000	事務局事務手当
準 備 費	50,000	名簿作製積立金
3) 予 備 費	17,000	
4) 合 計	1,050,000	

#### 事務局の移転・銀行口座代表名の変更

昭和59年6月16日以降, 事務局(当番校), 銀行口座代表者名が下記のとおり変更になりますので, 宜しくお願い申し上げます。

※ 事務局 東京都立墨田工業高等学校建築科(事務局長 井上 満)  
135 江東区 森下5-1-7 TEL 03-631-4928

※ 銀行口座 第一勧業銀行 芝支店 普通口座 054-1224173  
「東日本建築教育研究会 代表 補見善男」

## 昭和59年度 役員名簿

- |  |   |
|--|---|
| <p>1 会長：東京都立 墨田工業高等学校</p> <p>2 副会長：東京都立 墨田工業高等学校<br/>東京工業大学工学部 附属工業高等学校</p> <p>3 事務局長：東京都立 墨田工業高等学校</p> <p>4 会計監査：東京都立 小石川工業高等学校<br/>川崎市立 工業高等学校</p> <p>5 常任理事：楠見善男(会長)<br/>五十嵐永吉(副会長)<br/>赤地龍馬(製図主査)<br/>古谷勉(構造主査)<br/>古賀昌之(東工大附属工)<br/>古松本延夫(都立 葛西工)<br/>小野幹郎(東京工業高校)<br/>白石四郎(千葉 市川工)<br/>飯田三郎(神奈川向の岡工)</p> <p>6 分科会委員</p> <p>1) 製図分科会：主査 赤地龍馬(都立 田無工)<br/>古賀昌之(東工大附属工)<br/>土田裕康(都立 田無工)<br/>塩沢泰(関東第一高校)<br/>加藤尚(川崎 市立工)<br/>落合弘(神奈川藤沢工)</p> <p>2) 計画分科会：主査 佐藤賢吉(都立 墨田工)<br/>門馬進(東工大附属工)<br/>大橋正俊(都立 葛西工)<br/>本田友一(埼玉 川越工)<br/>山県慶三(神奈川 神奈川工)</p> <p>3) 構造分科会：主査 古谷勉(都立 田無工)<br/>栗原博(東工大附属工)<br/>井上満(都立 墨田工)<br/>佐久間一(千葉 市川工)<br/>池田幸正(川崎 市立工)</p> <p>4) 施工分科会：主査 山室滋(神奈川 神奈川工定)<br/>奥田幸司(都立 田無工)<br/>小野幹郎(東京工業高校)<br/>大沢二郎(埼玉 熊谷工)<br/>村上竹久(神奈川 藤沢工)</p> <p>7 教材委員会：委員長 五十嵐永吉(東工大附属工)<br/>井上満(副会長)<br/>赤地龍馬(製図主査)<br/>古谷勉(構造主査)<br/>白石四郎(千葉 市川工)<br/>堀越喜与志(都立 小石川工)<br/>加藤尚(川崎 市立工)</p> <p>8 編集委員会：委員長 堀越喜与志(都立 小石川工)<br/>古賀昌之(東工大附属工)<br/>池田幸正(川崎 市立工)</p> <p>9 製図コンクール運営委員会：委員長 赤地龍馬(都立 田無工)<br/>副委員長 白石四郎(千葉 市川工)</p> | <p>校長 楠見善男</p> <p>教諭 井上満</p> <p>教諭 五十嵐永吉</p> <p>教諭 井上満</p> <p>教諭 堀越喜与志</p> <p>教諭 加藤尚</p> <p>井上満(事務局長)</p> <p>高山英一(都立 蔵前工高)</p> <p>佐藤賢吉(計画主査)</p> <p>山室滋(施工主査)</p> <p>梅田次郎(都立 田無工)</p> <p>安藤允浩(安田学園高校)</p> <p>関田每吉(埼玉 熊谷工)</p> <p>菅野昭雄(千葉 市川工)</p> <p>佐藤克己(神奈川横須賀工)</p> <p>高山英一(都立 蔵前工)</p> <p>遠藤勇(東京工業高校)</p> <p>土信田達雄(埼玉 大宮工)</p> <p>角田勝男(神奈川向の岡工)</p> <p>安藤允浩(安田学園高校)</p> <p>大間俊彦(関東第一高校)</p> <p>田中良司(埼玉 大宮工)</p> <p>大庭孝雄(小田原城北工)</p> <p>堀越喜与志(都立 小石川工)</p> <p>遠山時幸(安田学園高校)</p> <p>佐藤功(埼玉 川越工)</p> <p>仲田治喜(横浜 鶴見工定)</p> <p>高橋一(都立 葛西工)</p> <p>田島昇(埼玉 春日部工)</p> <p>山崎敏弘(神奈川向の岡工)</p> <p>佐藤克己(神奈川横須賀工)</p> <p>土屋健(山梨 甲府工定)</p> <p>佐藤賢吉(計画主査)</p> <p>山室滋(施工主査)</p> <p>松本延夫(都立 葛西工)</p> <p>森安四郎(都立 田無工)</p> <p>松本延夫(都立 葛西工)</p> |
|--|---|

委員は製図分科会委員の兼任



## 4. 昭和59年度 総会・研究協議会報告

岩手県立盛岡工業高等学校 城戸敏夫

日時 昭和59年6月15日(金)～16日(土) 参加者：180名

会場 ホテル東日本(岩手県盛岡市)

### (1)総会議事

(ア)昭和58年度事業報告及び決算報告

(イ)会計監査報告

(ウ)役員改選

(エ)昭和59年度事業計画及び予算審議

(オ)その他

見学：チャグチャグ馬っ子：コンピューター・製図機器展示：卒業設計作品展示

(2)講演：演題 「雪と建築」 東北大学工学部教授 内山和夫

(3)研究協議会(全体会)： 研究主題「新教育課程の実践」

(イ)研究発表：「工業基礎」をどのような計画のもとにどのような内容で指導したか。

岩手県立社陵高等学校 鈴木善治

「工業数理」における一考察について

岩手県立久慈工業高等学校 松本元治

「建築科の実習」におけるパソコンの活用について

青森県立弘前工業高等学校 古跡昭彦

(ロ)質疑応答

記録映画上映 — 「躍進田無工高……卒業生はいま……」

(4)研究協議会(分科会)

議題：

製図分科会「建築製図の学習指導について」

計画分科会「建築計画の学習指導 — 建築法規の指導方法について」

構造分科会「建築設計の学習指導 — 指導項目と単位数について」

施工分科会「建築施工・実習の学習指導 — 施工実習の指導方法について」

(5)研究協議会(全体会)

(ア)各分科会の報告・質疑応答

(イ)講評

(6)研究視察「平泉中尊寺」

## 5. 青森県工高建築教育の概況について

県立青森工業高等学校 館山俊男

今回は青森県の高校建築科の概況をお知らせします。建築科設置の高校は現在公立4校、私立3校の計7校です。昭和30年代末までは、弘前、青森工高の2高のみで、明治43年創立の弘前工高が一番古く、業界、士会、官公署等でも同校の卒業生が最も多い。次いで大正2年創立の青森工高で、県都青森を中心に関連業界、各官公庁等に卒業生が活躍している。昭和38年に、高校生の急増に対応して、県立の工業高校が3校新設されましたが、何れも機械、電気系の学科が主体で、建築、土木の建設系の学科は既存の青森、弘前の2校の定員を2学級80名に倍増して要望にこたえました。私立校も40年代に新設され現在に至っている。以下各校毎にその特色等を紹介いたします。

弘前工高、上記のように本県では一番古く、建築科の創設は全国的にみても最古参の方で、所在地は弘前市の中央部、弘前城を囲む弘前公園に隣接し、5千本の桜及老松群に囲まれ、霊峰岩木山を西望する環境抜群の地にある。また同校はスポーツ校としても有名でバレー部の連続全国制覇等、数々の実績を残している。建築技術の進歩と共に、施設、設備の拡充、近代化の必要性を強調しているが、古い歴史をもっているだけに、老朽化が目立っているという。

青森工高、創立当初は市立工業徒弟学校として家具科から発足、次いで建具科、大正15年、建築科設置、現在5学科9クラスの編成である。位置は青森駅より西に10分程の所で交通の利便は市内校で最も恵まれ、閑静な住宅地にあるが、校地の狭いのが難点である。7年程前から3年生の後半の実習を選択制とし、A構造設計、Bパース彩色、C現寸、模型の3コースで10週でまとめている。この成果は格別PRしていないが、Aコースの履修生徒の求人が遠方の都市からもくる様になりました。進路別では進学20~25%、県外企業に $\frac{1}{3}$ 程度、残りは県内、地元の企業希望であるが、業界の不況等で仲々大変である。

以下建築科の設置順に述べます。

光星学院高校、八戸市、昭和31年普通科高校として創立、42年建築科設置、ロス五輪の銀メダリスト赤石光生君も同校の出身、レスリングは国内では無敵の強さを誇っている。建築科では理論学習に偏することなく、体を働かす、実習、実験、製図を中心としたカリキュラムで編成している。実習ではガス溶接、アーク溶接、製図ではトレース検定を実施し高い合格率を示している。進路は建設業の広範にわたり、就職、進学の割合は8:2、就職のうち県内、県外の比は半々で、12月頃までに全員内定している。

八戸工業大学第一高校、八戸市、昭和31年八戸電波工業高校として発足、43年建築科設置、51年から建築、土木の類似学科は括り募集とし、基礎的な科目は一年で共通学習とし、2年に進級するとき、自分の適性に合った学科を選択する制度としている。設計製図と実習を建築教育の柱とし、座学と関連させて学習している。設計は木造住宅から高層ビルま

で、各種設計や模型製作まで一貫した教育で実力養成をはかり、実習では現場に役立つ施工実習、構造実習で充実をはかっている。

野辺地工業高校、八戸市の光星学院を母体とし、昭和48年創立、青森、八戸市のほゞ中間、野辺地町にあり、風光明眉な烏帽子岳のふもとの恵まれた環境にある。生徒の多様な適性に応ずるため、多くのコースを設け、機械、電気、建築、自動車、保育、普通科があり、多方面からスクールバスで通学している。建築技術者、建築家の養成に徹底的な基礎学力と実習に重点をおき、設計製図、構造分野に全力を集中している。外にインテリア、防災もとり入れ、在学中にボイラー、危険物取扱者、ガス溶接、製図検定などの資格を取得することも目標にさせている。

県立八戸工業高校、南部分校、昭和55年、南部町（東北線八戸駅より30分程南寄り）を始め、三八地域の強い要望、期待のもとに、八戸工業高校の全日制、建築科のみの単科の分校として定員40名で開設された。普通教科と専門教科の調和を一層配慮しながら、特色ある建築科として「設備工業科」に関する科目を多くとり入れ、「空気調和設備」4単位の履修も含め48単位、普通科目48単位、計96単位とし、特殊性を高めるため、1年の工業基礎では、溶接、電気、板金、配管の内容を含め、2～3年の実習にも流体、給湯、排水通気、空調、ダクトに関する内容等、設備工業に関する内容をより一層高めている。在学中に取得可能な資格としては、トレース技能検定、計算技術検定、ガス溶接、ボイラー技士、電気工事士、危険物取扱主任者、消防設備士、冷凍機械保安責任者である。主な進路は現場施工技術者、設備技術者（空調、衛生防災、プラント）保安技術者（ボイラー、冷凍技士等）である。外に公務員、進学を希望する者も少なくない。58年より2学級80名定員となった。

県立十和田工業高校、創立は昭和38年、電気、機械の2科で発足、58年地域の強い要望により建築科1学級の設置となった。青森工を経て、八戸工南部分校の創設科長の岩城教諭が更に同校の建築科創設に再度励んでいる。進路等の面では既存の青森、弘前工などの学校に実績等から及ぶべくもないので、土木系の技術をとり入れた建築科づくりを目ざしている。位置は十和田市で三沢駅より電鉄で20分位、十和田市の北寄りの閑静な環境にある。以上で青森県の建築教育の概況を述べましたが、八戸工南部が58年度より2学級となり十和田工も卒業生を出す明後年からは、公立校で7学級、私立校で3学級、合計10学級400名に及ぶ建築の卒業生が毎年、社会に送り出されることとなります。青森県のような後進地域では、現在でも地元の業界にさばくのに大変なこと、建設業界の慢性的不況、地方公務員（県庁、市役所等）の職域が上級の大卒に切替えられたこと、それから県内各校からの有力な進学先である八戸工業大学の建築学科の学生が毎年100名近く出ているが、これが本来高卒で間に合う職域で競合するため、益々前途多難と思われます。これからは技能系の職域にもより多く進ませざるを得ないというのが現状であります。

## 6. 我校における木造実習の現況

石川県立羽咋工高 本橋 要作

<はじめに>

本校の建築科では、今年度から次に示す実習課題に切り替えて実施していますが、なにごん始めての試みであり、不備や矛盾も多くあると思いますが、こゝにその計画と中間結果を報告し、諸先生のご批判とご助言をいただき、より完全なものにしていきたいと考えています。

### 1. 目標

建築構造（木構造第1学年）で学習した内容を実習を通して、更に理解を深め、木造建築設計（住宅設計第3学年）ができる能力を養うとともに、建築技術者に必要な設計・施工・管理・指導などの知識と技術を習得させる。

### 2. 実習計画

- 1) 実習課題 木造2階建倉庫の加工と組立て (S  $\frac{1}{2}$ )
- 建物規模 3.60 m × 5.40 m (延面積 38.88 m<sup>2</sup>)
- 軒の高さ 5.30 m
- { 1階 幅 2.70 m 出入口 1ヶ所  
2階 幅 1.80 m 窓 1ヶ所 }
- 考慮事項
- 予定時間内に完成できること。
  - 多くの仕口を学習させるため、柱の配置を工夫した。
  - 床は、その組方と応力を身につけさせるため、組床とした。
  - 部材寸法は、地域の慣用寸法とし、その理解を深める。
  - 仕口は、理解しやすいように立体図で示した。
- 2) 実施学年 建築科第2学年 (男23名、女5名 計28名)
- 3) 班編成と配当時間

(全体)

課題 \ 時間	50分 × 27 = 1350分で交代			
木造加工組立	1	2	3	1班 9名
鉄骨組立	2	3	1	2班 9名
鉄筋組立	3	1	2	3班 10名 (内女5名)

(木造加工組立て)

班	1	2	3	○加工点数は次表参照
加工点数配当	293.5	312.0	292.5	○ $\frac{898}{2棟} = 449$
計	898			
第1学期末現在の出来高	293.5 + 80		—	

## 4) 部材数量と加工点数表

( ) 内訳

番号	名称	数量①	加工点数②	①×②	加工点数算出基準
1	側土台	3	(1)	7	(墨付・加工共1点20分と推定)
2			(2)	4	
3	妻土台	2		4	仕口等
4	隅柱	4		10.5	平柄・扇柄
5	通柱	2	(1)	10.5	傾ぎ大入短柄
6			(1)	11.5	大入蟻落し
7	くだ柱	8	(5)	2	小根柄
8			(1)	3	待蟻
9			(1)	4	かぶと蟻
10			(1)	5.5	こり腮
11	軒桁	2		23	小胴付重柄
12	胴差	6	(1)	7.5	種欠き(大)
13			(3)	10.5	種欠き(小)
14			(2)	4	切断(大)
15	小屋梁	4	(2)	13	切断(小)
16			(2)	14	
17	小屋束梔	4		2	(例)
18	〃 短	8		2	No.1-側土台
19	棟木	1		19	小根柄穴1.5×両端 = 3
20	母屋	2		11	隅柱扇柄穴1×両端 = 2
21	小屋筋違	8		0.125	側柱柄穴1 柱2本 = 2
22	檼	30		0.5	計 7点
23	大梁	2	(1)	10.5	No.4-隅柱
24			(1)	12.5	12.5
25	小梁	3		3	小胴付重柄穴4.25×2方向 = 8.5
26	根太掛	2		0.5	計 10.5点
27	根太	12		0.25	No.15-小屋梁
28	つり束	1		2	かぶと蟻落4×両端 = 8
29	敷居	1		3	種欠き1×両端 = 2
30	鴨居	1		4	小屋束柄穴1×3ヶ所 = 3
31	筋違	16		1	計 13点
32	火打梁	7		2	以下省略
33	方杖	7		1	
34	間柱	59		0.5	
計					449.0

5) 個人別加工点数配当計画表

班	生徒No 部材No	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	計	
		第 1 班	1	7									
2	4		4									8	
3				4	4							8	
4							10.5	10.5	10.5	10.5		42	
5					10.5							10.5	
6						11.5						11.5	
7					2	2	2	2	2			10	
8										3		3	
9						4						4	
10								5.5				5.5	
11	6		6	6	4	4	7	7	6			46	
12										7.5		7.5	
13	10.5		10.5	10.5								31.5	
14							4		4			8	
15							6.5	6.5	6.5	6.5		26	
16			7	7	7	7						28	
17	2		2	2	2							8	
18			2	2	2	2	2	2	2	2		16	
25	3						3			3		9	
26									1			1	
27					1.5		1.5					3	
計	32.5		31.5	31.5	33.0	33.5	33.5	33.5	32.0	32.5		(293.5)	
第 1 学 期 末 現 在 出 來 高	19		9.5	9.5									19
	20				5.5	5.5	5.5	5.5					22
	21									1			1
	22		1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5×2		15
	23							6			4.5		10.5
	24							6	6.5			12.5	
	26								1			1	
第 2 班	28								2			2	
	29			3								3	
	30				4							4	
	31	2	2	2	2	2	1	2	2	1		16	
	32	2	2	2	2	2	2	2				14	
	33	1	1		1	1	1	1	1			7	

第 2 班	34	3.5	3.5	3	3.5	3	3	3	3.5	3.5		29.5
	1	7										7
	2		4	4								8
	3				4	4						8
	4						10.5	10.5	10.5	10.5		42
	5					10.5						10.5
	6				11.5							11.5
	7	2		2		2		2	2			10
	8					3						3
	9		4									4
	10			5.5								5.5
	11	6	7	6			4	7	6	6+4		46
	計	34.5	34.5	34.5	35.0	34.5	34.5	35.0	35.0	34.5		(312.0)
第 3 班	12	7.5										7.5
	13			10.5	10.5	10.5						31.5
	14	4	4									8
	15			13	13							26
	16	14	14									28
	17		2×2	2					2			8
	18		2				2×2	2×2	2		2	16
	19						2	2	7.5		7.5	19
	20				11	11						22
	21							1				1
	22		1.5				1.5×2	1.5×2	1.5	1.5×2	1.5×2	
	23	4.5	6									10.5
	24											
	25	3	3	3								9
	27						1.5	1.5				3
	28			2								2
	29										3	3
30									4		4	
31						1×3	1×4	1×2	1×5	1×2	16	
32						2	2	2	2×2	2×2	14	
33						1×2	1	1×2	1	1	7	
34						7	7	6	6.5	3	29.5	
計	33.0	32.5	32.5	34.0	34.5	24.5	25.5	25.0	25.5	25.5	(292.5)	
總計											(898.0)	

6) まとめ

(1人当り実習時間の検討)

	加工点数計	人数 平均①	①×20分=②	個人実習 ②+600分)	実習率%	余裕率%
第1班	2935	9 32.61	652.2	1252.2	92.76	7.24
第2班	3120	9 34.67	693.4	1293.4	95.81	4.19
第3班	2925	5 33.30	666.0	1266.0	93.78	6.22
		5 (女) 25.20	504.0	1104.0	81.78	18.22

表中の600分は、次に示すように全員が同じ内容を同時学習するものと、( )内の個人差はあるが当然実習時間に含まれるべきものを加えた値である。

図面及び加工方法の学習	150分	} 計600分
建方実習	150分	
(準備・後片付・工具研磨)	270分	
(加工中の質疑応答等)	30分	

<おわりに>

以上、表を中心に、計画と中間結果を報告しましたが、頁数その他の制約から設計図と第1学期末現在出来高の写真に掲載できなかったことをお詫びします。



## 7. 施工分科会報告

県立神奈川工業高校 山室 滋

施工分科会の報告は、本年夏に実施した「施工実習研究協議会」の模様を、準備一会期中一アンケート調査と反省の記録で記載するものです。前半は、このニースの紙面の制限内で準備状況のあらましを載せ、会期中一アンケート調査・反省等と実習項目別の内容詳細については、各々の担当委員の原稿と併せて、春の分科会報告に記載します。

### 1. 実施要領の説明にビデオを活用

木造・鋼構造（S造）、鉄筋コンクリート造（RC造）の実習内容を視覚でとらえ理解を高めるため、研究協議会の第1日目の実施要領の説明にビデオテープを用いて実施内容の全体像を把握できるようにした。その準備作業とビデオ撮りおよびその編集は準備期間中に実施した。

### 2. RC造のビデオ撮り

研究協議会の準備作業、ビデオ撮りは夏休みの23日から25日の3日間に施工委員が各々の実習項目別に分担して行うことにしたが、木造・S造実習（工場内での作業）とRC造実習の3つの工程を短期間でビデオ撮りすることの難しさと、RC造は外部作業で、ビデオ撮り前の準備に時間を要することなどからできるだけ早目に実施して行くことにした。

幸い、準備作業とビデオ撮りは会場校（向の岡工高）の三戸部、山崎、加藤、園田の4先生の協力を得て、6月初めの中間テストと7月初めの学期末テストの期間中の午後を活用して実施した。その概要は次の通りである。

なお、会期中RC造実習の会場となるグラウンドは夏休み前は運動クラブの使用となるため、工場裏の空地を実習敷地に設定して作業、ビデオ撮りを実施した。

#### 1) なわ張りからくい位置の設定（6月4日（月）～）

なわ張り作業に必要なビニールテープや捨コンクリート上に墨出した部材墨に色分けで印すスプレーなどの資材を購入し、なわ張り作業の地ぐい、BM用のくい等のくい材料、境界、第1実習場の看板、くい位置定規などの段取りをする。

ビデオ撮りは「鉄筋コンクリート造実習」の資料（本年総会の分科会資料に記載）を基にして、なわ張り、BMの設定（平面位置、高さ基準）、くい位置の設定の順で作業内容を集録した。

#### 2) 捨コンクリート打ちから墨打ち（第2実習場）（7月5日（木）～）

会場校の生徒の手助けで根切りをすませた根切り底に捨コンクリート打ちを行う。

ミキサーへ諸材料を投入、混練して手押車で運び、根切り底の捨コンクリート用枠（厚さ60mm）の中へ打込み、木ゴてでならず。

墨打ちのビデオ撮りは作業順序に従って、BMより逃げ墨を印し、通り心墨、柱心墨、柱、地中ばり、基礎の型墨を印し、最後に部材形状墨の角部ヘスプレーで色分けに印した。

### 3) 土間床作りと墨出し(7月16日(月)・18日(水)～)

土間床に見たてるため  $Y_0 - X_3$  に合板2枚を、 $Y_0 - X_0$  に合板3枚を定位置に配置して、これに根太(87×40)を間隔450にくぎ打ちして組み立てる。

作業はBMから逃げ墨、 $Y_0 - X_0 \cdot X_3$  の通り心墨を印し柱、壁型墨と壁の通り墨を印し、これらの工程でビデオに集録した。

### 3. 会場準備委員会(7月23日(月)～25日(水))

施工委員会の委員の中には生憎、病気や入院等で手不足となったため、下記の先生を運営委員に委嘱して参加して戴き、会場校の先生方と一緒に会して準備委員会を開き、準備作業に入った。

高橋 清一(市立鶴見工高(定))：木造担当、 塩山 昇(熊谷工高)：S造担当  
城所 忠一郎(藤沢工高)：RC造担当、 高橋 康宏(葛西工高)：木造担当

#### 1) 準備委員会

第1日に全員で次の事項を検討して、午後から各々の準備作業とビデオ撮りを開始した。

#### ① 参加人員53名の予算案・運営方法の検討

資材費を各実習分担で検討する。資料費の印刷代、会議費、準備費および事務費の検討をする。

#### ② 実施内容の確認

各々の実習内容を実施の資料で確認し、工具、材料、消耗品等の会期内の必要量を確認し、内容の再吟味をする。墨つば、墨さしは必要数が多いので確認をする。

#### ③ 当日の運営について

実習グループごとに作業内容を吟味し、参加人員(班別)の振り振り、作業順序、時間内での実習方法などを研究し統一しておく。

#### ④ 資料のとじ込み作業は委員の手都合をみて実施する。

#### 2) 準備作業、ビデオ撮り

ビデオ撮りは幸い2台の機械で実施できるので、コマ切れ撮りとせずS造を専用とした。木造の準備は、墨さし、墨つばの調整作業から始め、S造は田無工高から借用し、東京工高のトラックで運んだ鉄骨現寸板の設定と工具の調整から始めた。

RCは会期中の所定の実習場に移動して準備作業を再開した。

先づ、なわ張り、BM、くい心出しの作業となる第1実習場の敷地境界線を区画し、続いて捨コンクリート上の墨出し、1・2階の床への墨出しの第2～4実習場を区画して各々へ隣地境界線、道路境界線の看板と実習場の看板を立てて実習場を明示した。

第2実習場の捨コンクリートの位置の根切りは合宿の生徒の手助けで行い、根切り底に

生コンクリー車を横付けして打設し、墨打ち作業の準備をした。

第3実習場の土間床の合板パネル  $1.8\text{ m} \times 1.8\text{ m}$ 、 $1.8\text{ m} \times 2.7\text{ m}$  の2枚はリヤカーで移動して設置した。また柱位置にはフープを取りつけた柱筋を立てて現場の味付けをした。

第4実習場の2階スラブ2ヶ所（ $Y_0$  通り  $X_0$ ・ $X_3$ ）は、わく組み足場を所定の位置に組み立て、これに合板を張って2階床に見たてた。

RC造のビデオ撮りは、第4実習場の墨出し作業が未済みなので、わく組み足場の下に1階の床と逃げ墨を設定し、これを上階の床に立ち上げる作業と、トランシットを据えて相手の立ち上げた逃げ墨を視準してスラブ上へ逃げ墨を墨打ちする作業を集録した。

#### 4. ビデオの編集（7月27日(金)、30日(月)）

ビデオテープは各実習項目共全作業を長時間かけて集録しているので当日の短時間用に編集する作業がある。

そこで、全体の時間を30～40分程度にして、しかも作業の順序・要領および内容が明確に理解できるように、重複している作業は省く、などを基本として画面を綴り、次に音声を入れる作業をして完成した。

#### 5. 準備作業の確認委員会（7月31日）

明日の開会を控えて、運営委員会を開き、今までの準備に手落ちはないか、各グループでの打合せは充分であるか、参加者の立場から各々の部所での作業を確認し、報告し合ったあと、全員で受付け、会議室、食堂および各実習場の現況を見て回り運営方法の最終確認をする。

委員は開会前日から会期中もホテルに宿泊して、参加者の案内やお手伝いをしたが、遠方から参加した前泊者も11名あり、委員も早目にホテルに着いて懇談することにした。

紙面の都合で今回は準備までを内容にしました。会期の報告は次回とします。

（以上）

## 8. 計画分科会報告

都立墨田工業高等学校 佐藤賢吉

### ◎はじめに

本年度、計画分科会の研究活動テーマは「建築法規の指導について」としました。これは、昭和57年度の建築計画（教科書）の編成内容・指導上の問題、および昨年度のアンケートによる基礎資料（①教育課程に関して、②建築法規の指導に関して）に継続するものである。特に建築計画（教科書）の第2章、第3章、第6章で取扱っている法規の分野について計画分科会委員会を中心として、具体的に研究をすすめているところである。すなわち当面、次の5項目について、学習目的、例題、演習課題等の検討をはじめた。

1. 建築法規の概要……………建築計画第3章に関連
2. 日影規制……………建築計画第2章に関連
3. 有効採光面積……………建築計画第2章に関連
4. 建ぺい率・容積率……………建築計画第6章に関連
5. 建築物の高さの制限……………建築計画第6章に関連

本誌では、これらの事項について、第34回総会（岩手大会）・研究協議会における分科会の記録をもとに述べることにする。

### □研究協議会（計画分科会）

日時：昭和59年6月16日（土）

会場：ホテル東日本・青雲の間、参加者31名

司会：大間委員（関東一高） 座長：佐藤（主査・墨田工）

- 1) 計画分科会活動の経過報告および、出席委員の紹介
- 2) 研究協議

「議題」 建築計画の学習指導について

#### — 建築法規の指導 —

① 研究協議会資料の説明・各項目についての資料概要（形式・内容の程度について）

② 各学校の現状報告

- |                    |                      |
|--------------------|----------------------|
| ○計画4単位のうち法規1.5単位実施 | ○実習6単位のうち法規2単位実施     |
| ○計画7単位のうち法規2単位 "   | ○実習5単位のうち法規2単位実施     |
| ○計画4単位のうち法規1単位 "   | ○実習4単位のうち法規1~2単位 "   |
| ○計画5単位のうち法規1~1.5 " | ○製図の中で関連法規を指導する。     |
| ○施工3単位のうち法規1単位 "   | ○その他、ゆとりの時間、選択の中で1~2 |
| ○施工5単位のうち法規2単位 "   | 単位程度法規の指導を行う。        |

なお、大教科制になり、生徒の意識面の上からも法規は独立科目として取扱うことが望ましいとの意見が強く出された。また、二級建築士試験の内容等の関連にお

いても、法規は独立科目とすべきであるとの意見が述べられた。実施状況の全体的傾向としては、各学校とも建築法規は、集中して1単位から2単位が大部分を占めていることがわかる。また、教材としては法令集を約9割の学校で採用しているのが現状である。

### ③ 建築計画の内容について

計画原論（環境工学）、計画各論（各種建築）、建築設備、建築史、建築法規の内容編成については、特に、建築史と建築法規の取り扱い方は、科目建築計画としては今後大いに検討すべきであるとの発言もあった。

### ④ その他

前回のアンケート調査に記載されていた教材の1つである“建築法規用教材”（日本建築学会編・B5版・186頁）が今春全面改訂1・2合本となりましたので誌上をかりて目次を列記しておきますので参考になれば幸である。

#### <建築法規用教材・目次>

第1章 建築法規の歴史	第9章 都市計画法
第2章 建築法規の展望	第10章 都市再開発法
第3章 建築法規の用語	第11章 宅地造成等規制法
第4章 建築基準法(II)集団規定	第12章 道路法
第5章 建築基準法(III)単体規定	第13章 住宅金融公庫法
第6章 建築基準法(III)制度規定	第14章 建築士法
一 付録・条文早見表 一	第15章 建設業法
第7章 消防関係法令	第16章 民法
第8章 労働関係法令	第17章 建築に関連する法律の概要

◎おわりに、昭和59年度計画分科会委員メンバーは下記のとおりです。分科会に対するご意見、要望などございましたら是非ご連絡下さいますようお願い申し上げます。

佐藤（都・墨田工） 山県（神奈川工） 大庭（小田原城北工）  
大間（関東第一） 安藤（安田学園） 本田（埼玉・川越工）  
田中（埼玉・大宮工） 大橋（都・葛西工） 門馬（東工大附属工）

★計画分科会連絡先・〒135 東京都江東区森下5-1-7

都立墨田工業高等学校 建築科 佐藤賢吉

## 9. 構造分科会報告

都立田無工業高校 古谷 勉

昭和58年9月から59年8月までの1年間の構造分科会の活動状況の概略を報告します。  
〈昭和58年〉

10月 10, 13, 58年度第4回構造分科会委員会（小石川工高で）。

- 「パソコンに関する58年度夏季講習会」の参加者を対象としたアンケート調査の結果を報告し、検討が行われた。これを踏まえて、「授業に役立つ、パソコンのプログラム集」の作成を進めることにした。昭和59年度の総会（岩手大会）で発表、各校に配布することを決定した。
- 59年度総会の構造分科会の協議内容の検討が行われた。今年度（58年4月）に実施した建築設計の内容に関するアンケート調査から、「単位別の建築設計の指導項目」の洗い出しを行い、建築設計の指導の実態を明らかにした資料を作成し、研究協議を行うことを決定した。また、パソコンのプログラム集ができるので、コンピュータを活用した建築設計の指導の展望なども協議することにした。
- 標準テスト「建築設計」の出題範囲が工業数理との関連があり、決めにくい。できれば各校の実情を調査したい。これに関するご意見がありましたらお寄せください。
- 建築設計—基本式を理解と活用—（実教）をパソコンによるプログラム化を図ることを検討した。今後の研究課題になった。

12月 12, 26 58年度第5回構造分科会委員会（小石川工高で）。

- 59年度総会の研究協議会（全体会）におけるパソコンの実践報告の発表者を構造部会で人選するよう理事会から要請があったことを報告した。  
〈58年度夏季講習会で行ったアンケート調査結果から、古跡昭彦先生（弘前工高）を発表者として推薦した〉
- 建築設計の単位数に応じた各校の指導内容の調査結果から、建築設計の指導項目の洗い出し作業を行う。

〈昭和59年〉

2月 2, 4 58年度第6回構造分科会委員会（小石川工高で）。

- 建築設計のアンケート調査のデータ整理を行う。作業が終了せず、各委員が作業を分担し、次回までに完成させ持ち寄ることとした。

3月 3, 8 58年度第7回構造分科会委員会（小石川工高で）。

- 建築設計のアンケート調査のデータ整理が終り、建築設計の単位数に応じた各校の指導内容を明らかにした資料の作成が終了した。

- 6月 6, 11 59年度第1回構造分科会委員会（川崎市立工高で）。
- パソコンのプログラム集の印刷，製本を行う。〈このプログラム集は，59年度の総会で発表した〉
- 6, 15～16 昭和59年度総会・研究協議会（岩手県盛岡市で）。
- 構造分科会出席者は33名。
  - 配布資料：①59年度夏季講習会におけるアンケート調査の結果報告，②全定別：単位別の建築設計の指導項目の割合を示すデータ表，③授業に役立つパソコンのプログラム集。
  - ①科目「建築設計」の単位数に応じた指導内容について，②建築科におけるパソコン教育についてを主な議題として研究協議を行った。科目「建築設計」の単位数に応じた指導内容についての協議は，意見が少なく，やや盛りあがりに欠けた。資料によって他校の指導内容（項目）を知ることができるので，各校は教員や生徒の実態を踏まえて，建築設計の指導内容の改善に役立てほしい。なお，不静定次数の指導では，判定式を用いている学校が出席者の1/3あることがわかった。
- 建築科におけるパソコン教育についての協議は，先生方の関心が高く，現在，パソコンを導入し，実践している学校から悩みや問題点がでた。
- ①建築科において，パソコンをどう位置づけるか。
  - ②どこに力点を定め，パソコンを活用するか。
  - ③パソコンを教えるのか，すなわちBASICを指導するのか。それとも建築教育に必要なソフトを用いたパソコンによる教育を行うのか。
  - ④パソコンを個別学習や一斉授業でどう生かしていくか。
  - ⑤建築専門科目の指導内容を減らし，パソコン教育に必要な時間数を確保するのか。
  - ⑥授業に役立つプログラム（ソフト）をどう確保するか。
  - ⑦健康管理についての配慮をどうするか。
- など，パソコンを導入した教育には問題点が多い。今後，これらの問題点を解決し，建築科としてのパソコンによる教育のあり方を確立しなければならない。研究会としても，できるだけ早い時期に，どうあるべきか方針を提案する必要がある。
- なお，東京都は都立の全職業高校に59年度，60年度，61年度の3カ年間で，順次一学級分（教師用1台，生徒用40台）のパソコンが5年リースで設置されることが決定した。本年度，建築科のある工業高校で設置したのは，田無工高・小石川工高・蔵前工高である。

## 10. 製図分科会報告

都立田無工業高等学校 赤地龍馬

### Ⅰ 分科会の動向について

1. 総会（盛岡大会） 一59年6月16日（土） 8.30～10.00

研究協議会（分科会） 議題：「建築製図の学習指導について」 参加者37名

#### (1) 製図コンクールについて

- ① 昭和58年度（第2回）実施結果について <下記②参照>
- ② 昭和59年度（第3回）実施要項について
- ③ 製図コンクールについての要望

#### (2) 建築製図の学習指導について<実践報告>

- ① 関東第一高等学校（東京） 塩沢 泰先生
- ② 岩手県立盛岡工業高等学校 川端健三先生

研究協議会（総会・分科会）の協議事項は上記の二題でした。製図コンクールについては、設計課題についての要望がありました。現在の設計課題は、課題、1「軒先マワリ詳細図」の模写。課題、2「木造平家建専用住宅」の模写。課題、3「木造2階建専用住宅」の設計製図といづれも、木造専用住宅を中心としたものであり、これらの課題は、第2学年で学習が終了する学校もあるので、これらの学校を対象とした課題を加えて欲しいと云うことでした。

課題の要望については、RC造の専用住宅などを「課題、4」として追加する必要もあろうかと思えます。今後、製図コンクール運営委員会で検討したいと思います。

製図指導の実践報告は「ここ数年来、業界の影響で建築科生徒の応募人数の減少、それに輪をかける様に生徒の質の低下が、どの研究会に出席しても取り上げられている。（中略）生徒にアンケートを取ってみると、建築科を希望して入学した生徒は46.8%、建築に対して興味を持って来た生徒は14.5%、将来建築関係に進むという生徒29.1%、出来ればという生徒が32.2%と、建築というものに関心を持っている生徒が、約半分という結果である」<報告書（まえがき）より> 関東第一高校における「製図コース別指導について」（実践報告書、B4 9頁綴）塩沢先生が、日頃の生徒の作品を持参され、生徒の能力に応じた内容を、先生方全員がいかにかに生徒に興味を持たせるかの、指導内容・方法について、指導現場の生々しいものでした。

盛岡工業高校の川端先生からは、58年度（第2回）製図コンクールにおいて、課題3の「金・銀賞」に入賞した指導法について、「生徒の個性」をいかにかに引き出すか、放課後も利用しての具体的報告がありました。また、低学年において、トレース紙を用いて木造の構造図を立体的に関連を持たせながら指導している実践報告がありました。両先生には、厚くお礼申し上げます。



総会当日は、58年度（第2回）製図コンクール金賞入賞作品を会場に展示しました。

## 2. 製図コンクールの運営に協力

製図コンクール運営委員会は、会長、副会長、事務局長、白石四郎先生（市川工高）および、製図分科会委員によって運営しており、分科会は全面的に協力しております。

### ② 製図コンクールの実施結果について（58年〈第2回〉）

実施結果については、第2回目より「建築士と実務」（オーム社刊）の月刊誌にも発表し、広く業界の人達にも、認識を深めることにしました。

第2回の実施結果は、課題3の金賞作品の図版入りで、「建築士と実務」59年7月号に掲載されました。また、第3回の結果につきましては、60年3月号に掲載の予定です。今後とも諸先生方の絶大なるご協力、ご支援の程をお願い申し上げます。

#### 1. 応募校数

63校 — 全日制57校、定時制6校

#### 2. 応募作品数

課題	作品数・学校数	全日制、定時制の別
課題 1	117枚 58校	全日制 111枚（55校） 定時制 6枚（3校）
課題 2	82枚 44校	全日制 76枚（41校） 定時制 6枚（3校）
課題 3	53枚 27校	全日制 48枚（24校） 定時制 5枚（3校）
合計	252枚（全日制 235枚 定時制 17枚）	

#### 3. 入賞者一覧表

賞課題	課題 1	課題 2	課題 3
金賞	岐南 工業高校 辻 一夫	岐南 工業高校 樋口 明紀	盛岡 工業高校 戸館 優
銀賞	札幌 工業高校 中川 淳	釧路 工業高校 石沢 伸一	宇都宮工業高校 須藤 隆司
	半田 工業高校 天木 光英	高崎 工業高校 小野里匡章	盛岡 工業高校 小山 隆春
銅賞	佐織 工業高校 遠藤 勉	岐南 工業高校 榎並 靖	愛知 工業高校 水野 豊 2年生
	藤岡 工業高校 中川 英一	久慈 工業高校 坂下 正彦	蔵前 工業高校 三輪 昌義
	千葉経済 高校 日暮 善夫	高崎 工業高校 堀内 昌好	前橋 工業高校 烏井 充幸 定時制
	藤岡 工業高校 山崎 正博		

## 11. ニュース

1. 昭和60年度の本会の総会・研究協議会は、来春6月7日（金）・8日（土）の両日、高山市で開催予定です。
2. 昭和60年度の夏期講習会は、パソコンの講習会を計画しております。  
期 間：3日間（夏休み期間中）  
内 容：パソコンの基本、プログラミング、応用（立体図形）
3. 各科目の指導内容（項目）、指導時間などについてのアンケートを計画しております。  
その節はよろしく御協力をお願いします。
4. 事務局は、都立墨田工高となりました。  
東京都江東区森下5～1～7  
〒135 TEL 03-631-3409  
4928
5. 来春、会員名簿発行予定です。御協力をお願いします。

## あ と が き

「建築教育ニュース」1984年号が出来ました。

今年の各県工高建築教育の概況は、青森県と石川県にお願いしました。館山先生、本橋先生御多忙の所有難うございました。

最後ですが、総会事務局と各分科会主査の先生方の御協力に感謝致します。

1984. 11

編集委員会